

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274202254		
法人名	株式会社 イッセイ		
事業所名	グループホーム平和 第1ユニット		
所在地	〒424-0038 静岡県清水区西久保1丁目13-26		
自己評価作成日	平成25年11月15日	評価結果市町村受理日	平成26年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202254-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202254-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年12月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

認知症高齢者・知的障害者・精神障害者・地域の老人・若者・保育園児との交流を通してノーマライゼーションを目指している。交流内容は、年2回のバザーでは、ご利用者が、お手伝いに参加したり精神障害者就労事業所の出店参加・近所の米屋さんによる餅つき実演販売・近くにある保育園児たちの慰問・高齢者のボランティア団体による演芸慰問・障害者の就労支援事業所からの清掃派遣・特別支援学校生の職場実習・地域奉仕活動の場を提供等活発に行われている。ホームの利用者様は、ご希望される方は、最期まで此処で暮らせるよう重度化した場合の介護支援体制が、構築されている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

商業地域の一角にある事業所は人通りのある所に位置し、建物は落ち着いた雰囲気ながらモダンで、入り口の前に伝言版があり、ちょっと立ち止まってもらえるような雰囲気です。玄関も広々としていて常に生花が飾られ清潔感もあります。日々の業務では看護師の管理者の元、職員一丸となって、入居者の思いを大切に尊厳を持って入居者に接しています。管理者、職員は向上心があり、声かけをしながら職員で対応を確認している。入居者の表情は穏やかで、ゆったりと暮らしていました。地域とのつながりも大切にしている、地域の行事に参加したり、事業所主催のイベントを開催しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたオープンな施設を心がけている。散歩・S型デイサービスの通所・地元商店との交流・バザーを職員・利用者と開催・参加している。	「住み慣れた町で最後まで人として暮らしたい」という理念は地域に根ざしていて、管理者と職員は日々の介護を行うにあたり、朝の引き継ぎで確認するなど常に意識して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入・地域のお祭り(ハローウィン・節分・地元のお祭り)が催される時にホームに地元の子供やボランティアがよってくださる。	管理者の家族は地元に住んでいて、地域の行事や風習は理解しているので、そのつながりを活かし、園児の訪問の受け入れやホーム主催のバザーを開催したり交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議は、事前に地域に回覧板を配布している。認知症高齢者の理解を呼びかける為に会の参加を地元住民に呼びかけている。実際に参加して下さった住民から認知症を患った兄弟の対応についてお話をいただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夕方、職員が目話した際に出て行ってしまいう利用者への対応法を参加された住民から教えていただき現在も実践している。	会議では、事業所の現状や問題点を報告し、民生委員や地元住民から提案や意見を積極的に聞き、実践することによってサービスの向上につなげている。2ヶ月に1回の開催はできていない。	固定の家族だけでなくその他の家族の参加も促し開催日時や形態を工夫して、2ヶ月に1回会議を開くことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の高齢介護課が、中心になり定期的に清水医療・福祉・介護の会を行っている。地域密着型施設からの代表として参加させていただき市の担当者とホームの実情について話す機会がある。	清水医療・福祉・介護の会の参加後、市の担当者が事業所の見学に来たり、成年後見人制度のことなどで担当者に意見を聞いたり助言を受けたりと協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、防犯上 夜21:00～朝6:30ごろまで施錠するほか開錠され自由に出入りできるようにしている。歩行がおぼつかない利用者が、1人でテーブル席から立ち上がる際の拘束しない対応を日頃より話しあっている。	入社初期研修で拘束の意味を説明し、身体拘束についての理解を深めている。スピーチロックに関しては管理者が気づいた時にはすぐに職員を呼んで、個別に指導している。徘徊に備えて「徘徊ネットワーク」に加盟し地域の方の協力を取り付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時などアザの有無など職員が、注意して観察されている。		

静岡県(グループホーム平和 第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者よりミーティング等で利用されている利用者の利用目的・内容について説明をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談を受ける時間を十分に設けて安心して入居してもらうよう入居までの時間を充分とるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の介護記録のコピーを送る際に意見要望等を職員又は、管理者にお話くださるよう文言の中に必ず入れている。	家族に毎月お便りと一緒に介護記録のコピーを同封している。またその中に意見要望書のコピーを入れている。家族の来所時に話を聞いて、居室の掃除を強化したり、挨拶をしっかりするなどの要望に答えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、2回のミーティング開催時、今年より社長面接を年1~2回行い職員から意見、提案を聞く機会を設けるようにしている。	面接を行い事業所の状況を知ってもらい、職員の待遇を現状に則して改善したり、職員に役割を持つことの楽しさや責任感を体験してもらったり、さまざまな試みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、代表者に勤務の状況について報告を行っている。給与水準については、事業所の収入に見合う金額の要求をせざるをえない現実はある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員疫吸引認定を2月に受けている。介護福祉士資格をもつ職員に対する研修として高度技術を要求される資格研修である。又、無資格で入職した職員に仕事をしながら2級ヘルパー講習会に参加してもらい資格を取得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年よりキャリアアップ研修[5事業所参加による補助金研修]を計画し今般2回目の研修では、ホーム職員に参加を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まり次第職員に利用者情報を流し入居後は、かかわった職員から情報を周知できるようにしている。職員が、利用者に早く慣れていただけるよう声掛け、見守りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談では、ご家族の話を十分に聞くようにしている。要望については、無理難題なこともあるので受容できない部分は、納得いただく場合もある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での介護の可能性について通所系のサービス導入の話も含めて相談にのることがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、食器拭き、乾いた洗濯物をたたむ等を一緒に行い共に生活を支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に混乱の酷い利用者様に夜間の面会、病院受診の職員との同行をお願いした。ご家族でできる方は、定期的に病院受診の同行を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の旧友から来た手紙の返事の代行・音信の途絶えていた甥っ子との連絡をとりもち面会までこぎつけている。	なじみの美容師に来てもらって、髪を整えてもらったり、床屋に出かけたりしている。手紙の代筆の支援から遠方よりはるばる来所してくれたケースもある。また墓参り等本人の希望が有れば、叶えるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりのペースを尊重しながら利用者様どおしの会話等のきっかけ作りを職員が間に入り支援している。		

静岡県(グループホーム平和 第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者のご家族が、今でもホームをたずねて来て下さり近況報告をしてくださる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや本人の希望に沿った支援が行えるよう朝の引きつぎやミーティング等で情報を共有している。意思疎通の困難な方は、表情や動作から思いを汲み取り声掛けやジェスチャーで対応している	入居時に本人や家族から聞き取りをして、生活歴や趣味、興味のあることを把握している。また、日常の入居者の仕草や反応、会話からどのような状態なのか職員で意思疎通をはかって対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者のプライバシーに配慮しつつ、ご本人や御家族より、これまでの生活歴、経過を情報収集し今までの生活を少しでも生かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は、人其々にご本人の意思を尊重し対応している。心身の状況に変化があったときは、管理者に相談している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議は、月に2回開催されている。職員からの情報交換、定期的な見直しは、勿論のこと変化のあった利用者様のケア内容について検討し決まったことは、ご家族が、面会時にお話させていただいたりしている。	ケア会議では、漏れのないように、事前に職員に書面で入居者の状況や気になることをまとめておいてもらい、全員で検討し対応している。家族の意見も反映させている。会議録はまとめて全職員に確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護の記録には、気づき、表情、ヒトコマを主に記入、変化や特別に変わったことは、業務日誌に記入し全職員が周知出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化が、あった場合や職員からの提案を、朝の引継ぎ時や適宜話し合い暫定プランとしてケアを行い定期的なミーティングで検討している		

静岡県(グループホーム平和 第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のS型デイサービスに参加し地域の高齢者との交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は、往診医がいる為に、ご家族・ご本人から同意をいただいた利用者様は、往診を受けている。5～6名のご利用者様は、かかりつけ医の受診をご家族が行ってくれている。	かかりつけ医には原則、家族に連れて行ってもらい、日頃の看護記録をコピーして持参してもらう。受診結果で不明確なことは直接医師に電話で聞いて確認している。往診の結果は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が、看護師であるため体調管理について日々の観察点を聴いて実行している。介護職が、バイタルサインチェックを行うことにより個々の体調を把握している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院に関しては、地域の総合病院のワーカーと連絡を密にとりスムーズな入院・早期の退院について支援体制を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医を利用されている利用者様は、入所時に医師より終末期の話を受けている。ホームの方針は、面接の段階でお話をしている。ホームでできることできないことの説明もしてある。地域運営推進会議でも終末期のホームでの対応を、都度、説明している。	入居時に個々に説明をしており、事業所のマニュアルもある。ただ、対応はその時によって異なるため、医師、看護師、家族、職員で協議してプランを立て、対応している。職員は日頃から話し合い、入居者・家族の思いに寄り添う介護を実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が、ラミアンキッドを使用し救急法を習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 防災訓練を行っている。1回は、地域の消防署に避難訓練・初期消火等について助言を行っていただいている。	消防署の参加する訓練では、担架の作り方や初期消火の仕方などを教わり、夜間想定訓練も行っている。事業所の建物が近隣では耐震性があるため、受け入れも提案している。避難時の備蓄や薬のストックもされている。	地域の住民とは馴染みの関係ができてつづがあるので、地域連携の防災訓練の実施等、協力を取り付けることを期待したい。

静岡県(グループホーム平和 第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様、一人ひとりにあった丁寧な対応を心がけている。プライバシーを損ねないよう介助時に特に注意を払っている	呼び名は本人・家族に聞いて、希望された呼び方をしている。入居者に尊厳を持って自尊心を傷つけないように言葉使いや声かけは特に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様1人ひとりの個性を重んじ理解力に合わせた声掛けを心がけている。ご本人の思い・希望を表現しやすい環境づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の希望を聞きだすことは、困難だが、過ごし易い状況を作ったりなるべく、その人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその日のお天気等にあわせ、なるべく明るい雰囲気になるよう工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの料理を聞いたり一緒に作りながら過去の生活を思い出していただけるような時間を作るようにしている。下準備・片付け等は、いつも利用者様にお願いするようにしている。	季節の材料を使用し、色彩にも気を使って、食事を楽しくめるように工夫している。入居者の好みのちらし寿司やコロッケ、カレーなどのメニューも定期的に出すようにしている。調理や下膳をできる人が自然に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、午前・午後のおやつ時にコップ一杯は、必ず飲んでいただいている。食事については、義歯で咬む事が、大変な方は、刻み・ブレンダーで飲み込みが、悪い人は、トロミを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様のできない部分については、援助し声掛けをしている。全介助の利用者様は、歯間ブラシ・ハミングッドで口腔ケアを行っている。嗽のできない人は、ハミガキテッシュなどで対応している		

静岡県(グループホーム平和 第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様、個々の日々の排泄状況を記入するものがあり、そこから様子を観てトイレ誘導したりオムツの対応についても個々の排泄の自立状態で仕様を変えている。	できるだけトイレで排泄できるように、タイミングをみて、声かけを行っている。布パンツ、紙パンツ、パッドなど個々に合わせて工夫している。また排泄状況により本人が落ち込まないように、声かけや着替えをするよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後のデザートにヨーグルトを使うことが多い。ご利用者によっては、乳製品を毎朝飲んでいただいている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日時に希望のある利用者様は、希望に合わせて入浴の時間を決めている。又、ご利用者様の状況に応じて入浴日以外の入浴も対応している。	入居者の希望で入浴ができ、介助者の指定もできる。同性介助の希望にも答えられるが、今の所希望がない。時には入浴剤や菖蒲、みかんの皮を使用してリラックスしてもらい、入浴時間もゆったり取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、テーブル席でうたた寝をしている利用者様に居室で休まれるよう声掛けをしてご本人の意向で居室へ誘導したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報については、各個人の記録のファイルに閉じられ、いつでも職員が見られるようになっている。臨時に出た薬は、内服の詳細を業務日誌に記入し全職員が、周知できるようにしている。又、効果についても日誌に記入してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中は、新聞をゆっくりと閲覧したり食器のかたづけ・買い物に出かけ他買い物客と触れ合ったりして個々に様々な活動に無理しせず支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に数回、車で遠出している。季節の風景が、わかるところへとでかけ外食して帰設する。利用者様からも希望を聞くようにしている。	すぐ近くにスーパーや薬局があり、買い物には便利な場所で、希望者が出かけられるよう支援している。車での外出も計画し、職員も入居者も楽しんでいる。お墓参りや選挙の投票は家族の協力を得ている。	



静岡県(グループホーム平和 第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診・日用品の買い物に職員が付き添いご利用者に支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、ご本人の希望に応じて行い伝えられない部分については、支援を行っている。手紙のやりとりについては、現在対象者がいないが、支援体制は、ととのっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、天窗・間接照明で自然の光や夜、落ち着いた雰囲気演出できる照明になっている。中庭には、落葉樹が、植えられ季節感を演出している。	自然の光や間接照明が柔らかく、床暖房設備があり、リビングや廊下にはソファが置かれ、気持ちが落ち着きゆったりくつろげる。また、中庭には木や花壇があり洗濯物が揺れ、生活感を五感で感じ取れる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際にソファが置かれ気のあった者通しが、談笑されている。広いリビングでは、テレビを観たり会話を楽しんだりしながら1人ひとりが、好きな場所で思いの時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご家族に自宅の部屋に似た演出ができるよう備品は、持ち込める可能性のあるものは、自宅のものを持ち込んでいただくようお願いしている。	シングルベッドを2つ入れても十分余裕があるスペースで、窓も広く明るい。自宅から馴染みの物を持ち込んでくつろげる部屋となっている。壁にもお気に入りのカレンダーや家族の写真が貼られていて、表札やのれんも違和感なくさげられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、安全に配慮されバリアフリーになっている。廊下・トイレ・浴室には、手摺が設置され残存機能を生かした安全対策と自立を配慮した環境になっている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	株式会社 イッセイ		
事業所名	グループホーム平和 第2ユニット		
所在地	〒424-0038 静岡県清水区西久保1丁目13-26		
自己評価作成日	平成25年11月15日	評価結果市町村受理日	平成26年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2274202254-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202254-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者・知的障害者・精神障害者・地域の老人・若者・保育園児との交流を通してノーマライゼーションを目指している。交流内容は、年2回のバザーでは、ご利用者が、お手伝いに参加したり精神障害者就労事業所の出店参加・近所の米屋さんによる餅つき実演販売・近くにある保育園児たちの慰問・高齢者のボランティア団体による演芸慰問・障害者の就労支援事業所からの清掃派遣・特別支援学校生の職場実習・地域奉仕活動の場を提供等活発に行われている。ホームの利用者様は、ご希望される方は、最期まで此処で暮らせるよう重度化した場合の介護支援体制が、構築されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたオープンな施設を心がけている。散歩・S型デイサービスの通所・地元商店との交流・バザーを職員・利用者と開催・参加している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会加入・地域のお祭り(ハローウィン・節分・地元のお祭り)が催される時にホームに地元の子供やボランティアがよってくださる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議は、事前に地域に回覧板を配布している。認知症高齢者の理解を呼びかける為に会の参加を地元住民に呼びかけている。実際に参加して下さった住民から認知症を患った兄弟の対応についてお話をさせていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夕方、職員が目話をした際に出て行ってしまう利用者への対応法を参加された住民から教えていただき現在も実践している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢介護課が、中心になり定期的に清水医療・福祉・介護の会を行っている。地域密着型施設からの代表として参加させていただき市の担当者とホームの実情について話す機会がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、防犯上 夜21:00～朝6:30ごろまで施錠するほか開錠され自由に入出りできるようにになっている。歩行がおぼつかない利用者が、1人でテーブル席から立ち上がる際の拘束しない対応を日頃より話しあっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時などアザの有無など職員が、注意して観察されている。		

静岡県(グループホーム平和 第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者よりミーティング等で利用されている利用者の利用目的・内容について説明をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談を受ける時間を十分に設けて安心して入居してもらうよう入居までの時間を充分とるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の介護記録のコピーを送る際に意見要望等を職員又は、管理者にお話しくださるように文言の中に必ず入れている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、2回のミーティング開催時、今年より社長面接を年1~2回行い職員から意見、提案を聞く機会を設けるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、代表者に勤務の状況について報告を行っている。給与水準については、事業所の収入に見合う金額の要求をせざるをえない現実はある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員療吸引認定を2月に受けている。介護福祉士資格をもつ職員に対する研修として高度技術を要求される資格研修である。又、無資格で入職した職員に仕事をしながら2級ヘルパー講習会に参加してもらい資格を取得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年よりキャリアアップ研修[5事業所参加による補助金研修]を計画し今般2回目の研修では、ホーム職員に参加を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まり次第職員に利用者情報を流し入居後は、かかわった職員から情報を周知できるようにしている。職員が、利用者に早く慣れていただけるよう声掛け、見守りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談では、ご家族の話を十分に聞くようにしている。要望については、無理難題なこともあるので受容できない部分は、納得いただく場合もある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での介護の可能性について通所系のサービス導入の話も含めて相談にのることがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、食器拭き、乾いた洗濯物をたたむ等を一緒に行い共に生活を支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に混乱の酷い利用者様に夜間の面会、病院受診の職員との同行をお願いした。ご家族でできる方は、定期的に病院受診の同行を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の旧友から来た手紙の返事の代行・音信の途絶えていた甥っ子との連絡をとりもち面会までこぎつけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりのペースを尊重しながら利用者様どおしの会話等のきっかけ作りを職員が間に入り支援している。		

静岡県(グループホーム平和 第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者のご家族が、今でもホームをたずねて来て下さり近況報告をしてくださる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや本人の希望に沿った支援が行えるよう朝の引きつぎやミーティング等で情報を共有している。意思疎通の困難な方は、表情や動作から思いを汲み取り声掛けやジェスチャーで対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者のプライバシーに配慮しつつ、ご本人や御家族より、これまでの生活歴、経過を情報収集し今までの生活を少しでも生かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は、人其々にご本人の意思を尊重し対応している。心身の状況に変化があったときは、管理者に相談している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議は、月に2回開催されている。職員からの情報交換、定期的な見直しは、勿論のこと変化のあった利用者様のケア内容について検討し決まったことは、ご家族が、面会時にお話させていただいたりしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護の記録には、気づき、表情、ヒトコマを主に記入、変化や特別に変わったことは、業務日誌に記入し全職員が周知出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化が、あった場合や職員からの提案を、朝の引継ぎ時や適宜話し合い暫定プランとしてケアを行い定期的なミーティングで検討している		

静岡県(グループホーム平和 第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のS型デイサービスに参加し地域の高齢者との交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は、往診医がいる為に、ご家族・ご本人から同意をいただいた利用者様は、往診を受けている。5～6名のご利用者様は、かかりつけ医の受診をご家族が行ってくれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が、看護師であるため体調管理について日々の観察点を聴いて実行している。介護職が、バイタルサインチェックを行うことにより個々の体調を把握している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院に関しては、地域の総合病院のワーカーと連絡を密にとりスムーズな入院・早期の退院について支援体制を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医を利用されている利用者様は、入所時に医師より終末期の話を受けている。ホームの方針は、面接の段階でお話をしている。ホームでできることできないことの説明もしてある。地域運営推進会議でも終末期のホームでの対応を、都度、説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が、ラミアンキッドを使用し救急法を習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 防災訓練を行っている。1回は、地域の消防署に避難訓練・初期消火等について助言を行っていただいている。		

静岡県(グループホーム平和 第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様、一人ひとりにあった丁寧な対応を心がけている。プライバシーを損ねないよう介助時に特に注意を払っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様1人ひとりの個性を重んじ理解力に合わせた声掛けを心がけている。ご本人の思い・希望を表現しやすい環境づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の希望を聞きだすことは、困難だが、過ごし易い状況を作ったりなるべく、その人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその日のお天気等にあわせ、なるべく明るい雰囲気になるよう工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの料理を聞いたり一緒に作りながら過去の生活を思い出していただけるような時間を作るようにしている。下準備・片付け等は、いつも利用者様にお願いするようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、午前・午後のおやつ時にコップ一杯は、必ず飲んでいただいている。食事については、義歯で咬む事が、大変な方は、刻み・ブレンダーで飲み込みが、悪い人は、トロミを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様のできない部分については、援助し声掛けをしている。全介助の利用者様は、歯間ブラシ・ハミングッドで口腔ケアを行っている。嗽のできない人は、ハミガキティッシュなどで対応している		



静岡県(グループホーム平和 第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様、個々の日々の排泄状況を記入するものがあり、そこから様子を観てトイレ誘導したりオムツの対応についても個々の排泄の自立状態で仕様を変えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後のデザートにヨーグルトを使うことが多い。ご利用者によっては、乳製品を毎朝飲んでいただいている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日時に希望のある利用者様は、希望に合わせて入浴の時間を決めている。又、ご利用者様の状況に応じて入浴日以外の入浴も対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、テーブル席でうたた寝をしている利用者様に居室で休まれるよう声掛けをしてご本人の意向で居室へ誘導したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報については、各個人の記録のファイルに閉じられ、いつでも職員が見られるようになっている。臨時に出た薬は、内服の詳細を業務日誌に記入し全職員が、周知できるようにしている。又、効果についても日誌に記入してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中は、新聞をゆっくりと閲覧したり食器のかたづけ・買い物に出かけ他買い物客と触れ合ったりして個々に様々な活動に無理しせず支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に数回、車で遠出している。季節の風景が、わかるところへとでかけ外食して帰設する。利用者様からも希望を聞くようにしている。		

静岡県(グループホーム平和 第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診・日用品の買い物に職員が付き添いご利用者に支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、ご本人の希望に応じて行い伝えられない部分については、支援を行っている。手紙のやりとりについては、現在対象者がいないが、支援体制は、ととのっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、天窗・間接照明で自然の光や夜、落ち着いた雰囲気演出できる照明になっている。中庭には、落葉樹が、植えられ季節感を演出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際にソファが置かれ気のあった者通しが、談笑されている。広いリビングでは、テレビを観たり会話を楽しんだりしながら1人ひとりが、好きな場所で思いの時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご家族に自宅の部屋に似た演出ができるよう備品は、持ち込める可能性のあるものは、自宅のものを持ち込んでいただくようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、安全に配慮されバリアフリーになっている。廊下・トイレ・浴室には、手摺が設置され残存機能を生かした安全対策と自立を配慮した環境になっている。		